

新しい年を迎えて

理事長 有馬真喜子

2018年、新しい年を迎えました。今年も一緒に歩んでまいりましょう。よろしくお願ひ申し上げます。

国連ウィメン日本協会には、今年は大きな変化がありそうです。それは、UN Women本部から、14か国にある国内委員会に対し、国連との承認協定を改定する旨の通知があったからです。新承認協定がどのようなものになるか、この原稿を書いている時点ではまだ案が届いていないのでよく分かりませんが、ただ一つ確かなことは、ファンドレイジングを一層強化してほしいとの要請が盛り込まれることになると思われます。

2017年12月に来日したグテーレス国連事務総長のスピーチなどからも分かるように、国連は今、核の問題など安全保障上の課題や難民などに多くのエネルギーと多額の費用を要し、結果として多くの国連機関が活動資金難を抱えています。国内委員会へのファンドレイジング強化要請は、そのような事情を反映してのことと考えられます。

私たちのようなNPOでは、理事は執行機関です。そしてご承知の通り、国連ウィメン日本協会では、理事はすべて報酬なしのボランティアです。私から申し上げますと仲間褒めのようになり、少々気恥ずかしいのですが、そんな中、日本協会の理事の方々、事務局長を助けてほんとうによく活動しています。

理事会への出席以外に、チームをつくって会合を開き、自分たちで足を運んで調査し、専門家や、UNICEF、WFPなど私たちの仲間の国内委員会にも学んでいます。チームは、ファンドレイジング、広報、国際、協力協定団体、法人本部です。

今年から、新しい役員体制となりますが、これまで同様チーム活動は続けられ、そして多分、ファンドレイジングに重点が置かれることになるでしょう。もちろん、UN Womenが掲げる、女性の政治的・経済的エンパワーメントや女性に対する暴力撤廃などを、より深く知っていただく活動も続けます。



昨年は「世界の女性と少女に希望の未来を届けたい」という新たなテーマの下、寄付のお願いを中心とする新しいリーフレットが誕生しました。マンスリー・ドネーションのお願いも始まりました。今また、新しい寄付のあり方を模索中です。

一口にファンドレイジングと言っても、寄付文化になじみの薄かった日本では、企業または個人にお願いするにしても、なかなか容易なことではありません。どのようなことのためにお金を集めるのかを具体的に説明し、どう使われたかの結果をしっかりと報告する。みなさまの大切なお金をいただくのですから、説明責任が本当に大切なのだと改めて肝に銘じています。

私たち国連ウィメン日本協会は、これまでの努力の結果、NPOとしてとても信頼の高い「認定」の資格を認められています。つまり国連ウィメンへの寄付は、企業や個人の納付する税額から、一定の限度まで控除されます。そうした制度も十分にお伝えしながら、今年も協会一丸となって活動を推進してまいります。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

UN Womenの人道支援プログラム ～支援の現場から～

ここ数年、UN Womenは、人道支援にジェンダーの視点を取り入れようと、この分野で積極的にプログラムを展開しています。災害や人道危機が起こると、一番被害を受けるのは女性です。しかし、UN Womenは、このような女性たちを単なる被害者としては見ていません。危機的状況の中で、家族やコミュニティをまとめているのは、いつも女性です。女性が、復興支援分野で意思決定に参加できれば、一番頼りになる支援者になれるのです。このような視点で、実際にどんなプログラムが展開されているのか、以下に2つの例をあげます。

(翻訳: 本田敏江理事)

キャッシュフォーワーク(復興の支援が仕事につながる仕組み)でシリア難民女性が自立

約8万人のシリア人が、自国の戦火を逃れてヨルダン最大のザータリキャンプで暮らしています。UN Womenは、2012年以来ここに、「オアシス」と呼ばれる、女性たちが安全に集える場所を3か所設置し、毎月5千人にも上る女性・少女がここを訪れています。オアシスでは、仕事につながる機会を提供したり、様々な支援がどこで受けられるかを紹介したり、アラビア語と英語の識字教育やコンピュータークラスも実施しています。またUN Womenは、キャンプの安全、食事券、衛生などの基本的な問題を、意思決定者と話し合える委員会の立ち上げを支援しました。この委員会のおかげで、女性たちは、自分たちの場所に閉じこもって孤立することから救われ、仲間たちと交わり、経済的自立に向けてスキルを習得する機会が持てるようになっていきます。このようなキャッシュフォーワークの枠組みの中で、洋服の仕立てを仕事にしているヌール(34歳)は、「ここでは皆が家族のようです」と言っています。また職人になったスマ(22歳)は、「シリアでは死や爆撃で大きなストレスがあったけれど、ここではそれから解放され、歌ったり、ダンスしたりして楽しい時間が持っています」と付け加えました。

(UN Women News 2015年10月13日より抜粋)



ワークショップで手芸を学ぶシリア女性

ボゴハラムから逃げてきた女性達、ニジェールのキャンプで癒しと経済力を求めて

ナイジェリアとの国境にあるニジェールのディファ地域では、30万人以上の難民が暮らしています。彼らは、ボゴハラムによる虐殺、誘拐、レイプから逃げてきた人たちです。その70%が女性と子どもで、多くが性的暴力を経験しています。この女性達には収入の道が断たれていることから、UN WomenとUNHCRは、地域の団体と協力して、この被害者たち特有のニードやリスクに対応した人道支援を展開しています。ラオウディ・アブデュレイは、夫を殺されて、10か月の子どもと故郷を逃げました。「ボゴハラムの武装集団は、私たちをモスクに集めました。男たちを中心に、女たちを外に集めたのです。中は見えなかったけれど、夫が他の11人と一緒に処刑されたとわかりました」と彼女は言っています。彼女は、翌朝、夫を埋葬して、妹と一緒にニジェールの難民キャンプへ逃げました。そこでは、水と食料、医療センターなどはありましたが、暮らしていくための収入がありませんでした。

女性の被害者たちは、そこで、すぐに貧困の罠に陥ってしまうのです。UN WomenとUNHCRは、地域のNGOと協力して、2つのキャンプに暮らす女性被害者たちに、基本的な生活必需品を支給するだけでなく、自分で仕事を立ち上げて運営できるような支援を始めました。このイニシアティブには、日本政府が基金を提供していますが、これによって、女性被害者は小企業運営の研修を受けて、初期資金を提供されます。これまでに、350人の女性が起業し、その収入によって健康状態を改善し、家族もより幸せを味わえるようになっていきます。

(UN Women News 2017年10月20日より抜粋)



職業訓練で自分の作った作品を見る若い女性

人道支援に欠かせない女性と子どもへの視点

JICA 社会基盤・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室

田中 香苗

今、私たちは未だかつて経験したことがないような深刻な人道危機に直面しています。繰り返される危機により、人道支援を必要としている人々の数は年々増え続け、人道支援を必要としている人々は1億1,200万人いるとされ、このうち紛争を逃れてきた難民は2,250万人に上ります。人道支援が必要な人々の75%は女性と子どもで、人道危機下ではジェンダーに基づく暴力が増加するなど、女性や女児は特に脆弱な立場に置かれます。例えば、難民・避難民女性及び女児の5人に1人が性暴力の被害を受けたと推測されています。また、人道危機により、多くの女性が非正規セクターで働く傾向にあり、給与が著しく低い仕事に従事するなど、女性の生活が脅かされます。人道危機の大規模化・長期化に伴い、より開発の視点に立った支援や、女性や子どもを含む多様なニーズに即した支援が重要になってきます。

JICAでは、長年の開発機関としての強みを活かし、難民発生の大規模化・長期化に対応すべく、より中長期的観点から女性や子どもを含む多様なニーズに対応した難民支援を展開しています。例えば、シリア危機の長期化に伴い、緊急支援に加えてシリア難民の自活に向けた支援が求められる中、ヨルダンに逃れてきたシリア難民女性等を対象に、「シリア難民女性生計向上支援プロジェクト」を2017年9月より開始しました。また、将来のシリアの復興を担う人材育成を目的とした、シリア難民に対する人材育成事業「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム」を実施中です。同プログラムでは、大学院への留学生のみならず、同伴家族として来日した女性や子どもたちのケアのためのカウンセリングの実施や日本語学習機会の提供など、家族の生活面についてもきめ細やかにサポートしています。私たちが住む日本でも、将来の祖国の復興に向けて懸命に生きる人々がいることを忘れてはなりません。

応援メッセージ

男性はスイメンになれるか

一般財団法人女性労働協会会長

鹿嶋 敬

新聞記者時代は男女雇用機会均等法の制定前、施行後を中心に女性労働問題を取材の主なターゲットにしてきた。大学教員時代の10年間は政府の男女共同参画行政に係わり、現在は一般財団法人女性労働協会の会長として、ファミリーサポート事業や政府の女性活躍関連事業を推進している。

口さがない友人の中には、女、おんなで飽きないか？などと冷やかす向きもある。

確かに男性という立場から半世紀近く、「女性」に係わるのはあまり例がないのかもしれない。「係わる」といっても仕事の一環であり、同時に性別役割分担の問題などは男性の生き方と表裏一体である。いつも「自分はどうなんだ」という自問自答を繰り返すことにもなる。

この点で追及の手を緩めないのは妻で、男性の家事参画にしても、よその男性に薦めているだけなのよね、等々と手厳しい。さらに、サラリーマンの長男は毎晩の夕飯を用意している。そのきっかけというのが「子どものころ、父が書いた本に男性も家事を、という趣旨の一文があり、結婚したら僕もそういう生き方を」と思い、実践に移しているというのだから、その「父」が何もしないというわけにはいかない。

仕事を持つ妻と夫婦二人の生活の中で私が担当するのはゴミ出し、洗濯ものの干し、風呂の準備、家の掃除、食事の後片付け…。肝心のものが抜けている。炊事だ。もちろんご飯も炊けるし、おかずも焼く刻むくらいはわけではないが、なにしろ“自作”は美味しくない、というわけで妻に依存している。ここから導き出せる結論は、男性は炊事OKのスイメンになる必要があるということ。

残念ながらイクメンと違って水面下に潜みなかなか浮上しないが、反省も込め、男女共同参画の時代のカギは男性がスイメンになれるかどうかだと強調しておきたい。女性の活躍も、最も大変な炊事をいとわない男性が増えてこそ、だ。



国連ウィメン日本協会の活動

シンポジウム「AI時代 女性と少女が未来を拓く——ステレオタイプの殻を破ろう」

理事 田中由美子

世界は技術の進化により目覚ましい変化を遂げています。特に、AI (Artificial Intelligence 人工知能) は、私たちの生活や社会、経済に大きな影響を及ぼすようになってきました。今後、女性の仕事の種類や働き方も変わるとでしょうし、家事や介護などにAIを活用できれば、新たな生活や仕事の世界も広がります。

AI時代がもたらす社会にどのように対応し新しい未来を築いていくのかについて議論するため、「AI時代 女性と少女が未来を拓く——ステレオタイプの殻を破ろう」と題するシンポジウムが2017年12月2日に開催されました^{*}。会場となった津田塾大学(千駄ヶ谷キャンパス)には、210名の学生、大学関係者、一般人、企業の方々などが参加され、熱心な討議がおこなわれました。

有馬真喜子国連ウィメン日本協会理事長、高橋裕子津田塾大学学長の開会挨拶に続き、井上智洋駒澤大学経済学部准教授が基調講演をおこないました。「AI時代のキャリア形成—女性・少女が躍進する未来に向けて」という題で、女性の社会進出、AIの現状と未来、AIが雇用に及ぼす影響、第4次産業革命とそれに向けて何をすべきか、という講演がおこなわれました。



続いて、パネルディスカッションでは、NHK「クローズアップ現代」のキャスターを務めてこられた国谷裕子さん(東京芸術大学理事)、津田塾大学総合政策学部長の萱野稔人教授、日本マイクロソフト株式会社プラクティス デベロップメントマネージャーの戸嶋一葉さん、井上智洋准教授の4名のパネリストにより、「AI時代テクノロジーと共存する社会で女性・少女はどのように仕事や生活にチャレンジしていくのか」というテーマで討論がおこなわれました。



あらゆるモノがセンサーを持ちネットにつながるようになるAI時代には、家事をAIなどの機械に任せられるようになり、テレワーク支援が可能になり、労働時間の長さは意味を持たなくなり、出産・育児との両立は比較的容易になります。事務職が大幅に減少するので、女性が失業すると言われていますが、AI時代でも人間には、機械で代替できないクリエイティビティ、マネジメント、ホスピタリティの分野での活躍が期待されています。

これらの分野では男女による能力差はなく、多様な働き方が可能になり、女性や多様な人々にとって仕事がしやすくなります。ただし、女性も男性も自らのジェンダーステレオタイプの壁を越えていかなければなりませんし、問題発見能力や、感性も必要とされる課題解決に主体的に取り組んでいく能力を磨き、意思決定者として社会の変革を進め、さらに新しい社会や制度を創造していきけるようになることが必要です。私たちひとりひとりのチャレンジが求められています。

^{*}シンポジウムの主催団体は、内閣府、男女共同参画推進連携会議、津田塾大学、公益社団法人ガールスカウト日本連盟、一般社団法人大学女性協会、〈認定〉特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会です。後援団体は、経済同友会、国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人国際協力機構(JICA)、国連ウィメン日本協会(北九州、大阪、よこはま、東京、さくら)です。

UN Women NC ミーティング報告 (レイキャビク)

理事 本田敏江

UN Women 国内委員会会議が10月24日～26日までレイキャビク郊外で開催されました。アイスランドは初めて訪問しましたが、まず自然の豊かさ、エネルギーの豊富さにおどろかされました。会議が開かれる郊外のホテルまではバスで移動しましたが、途中で大統領夫妻に表敬訪問しました。大統領公邸というのがビーチに建っている白い可愛い家で、庭であるビーチから野生のあしかを見ることができるのです。

会議で話されたことの中で一番私たちに関係があったのは承認協定の改定です。本部の説明では現在の協定はユニフェムからUN Womenの移行を助ける意味では有効であったけれど、今はさらに洗練された協定が必要な時期に来てい

るということでした。新協定はUNHCRがその国内委員会と結んでいる枠組みに倣ったもので、①本部と国内委員会（NC）の関係をさらに密なものにする、②年間パートナーシップ協定を新設し、NCがその年のビジネス戦略、活動計画、予算、ファンドレイジング目標などを記入する、③NCが年間計画、活動報告などを作りやすくするためにテンプレートを作る、というものです。本部からのさらなるファンドレイジングへの期待を強く感じました。

会議の冒頭ではアイスランドNC、オーストリアNCがヨルダンにあるザータリ難民キャンプを訪ねた報告がありました。これはヨルダン最大の難民キャンプで8万人が暮らし、その80%が女性です。UN Womenはここにオアシスと呼ばれる女性が安全に集える場を作り、女性が孤立するのを防いでいます。さらにはキャッシュフオーワークという難民支援を仕事につなげるというイニシアティブも立ち上げ、女性たちは縫製、工芸、美容などのスキルを身につけようとしています。

ドンとシェリーというUN Womenのコンサルタントによるファンドレイジングのトレーニングも受けてきました。マンスリードネーション（月極め募金）への方向性は変わらないものの、今までのFace-to-Faceと言われる街頭募金でなくテレマーケティングという手法が中心でした。これはイベントの参加者や一度だけ募金してくれた人たちに電話してマンスリードナーになってもらうやり方です。他の国内委員会がマンスリードナーの人数を増やして拠出金を増額している中、日本協会はなかなかマンスリードナー数が伸びていないのが実情です。ご興味のある方はぜひ日本協会のホームページ「寄付」からマンスリードネーションのページを訪れてみてください。



ベトナム・ダナンの「女性と女兒に対する暴力のない地域づくりプロジェクト」日本語字幕付きDVD

国連ウィメン日本協会は2015・2016年度の拠出金で、ベトナム・ダナン市で展開された「女性と少女に対する暴力のない地域づくりプロジェクト」を支援いたしました。

UN Womenが、ベトナムのダナン女性連合と協働し、女性に対する暴力が発生する前にその

根を断つために展開するプログラムです。このほど、その中間報告が動画にまとめられました。題して「地域ぐるみで女性や少女に対する暴力にNO！～ベトナム・ダナン市の取り組み～」。メディアのジェンダー配慮を促すために、ジャーナリストや編集者等向けの研修をはじめ、男性啓発グループのファシリテーター向け研修など多様な研修やワークショップの様子が、分かりやすく報告されています。UN Womenとダナン市の女性連合が力を合わせ、永遠の課題である、女性への暴力を断ち切るために、どのように男性にアプローチし巻き込んでいったか、苦心の様子がわかります。

国連ウィメン日本協会は、この動画に日本語字幕を付け、ホームページにUPしました。また、広く活用されるように、DVD版も製作しました。DVDをご希望の方は、日本協会事務局にご連絡ください。



新パンフレット「世界の女性と少女に希望の未来を届けたい」

国連ウィメン日本協会は、このほど、協会の顔であるパンフレットを改訂いたしました。皆様からのお気持ちをどのようにご寄付にむすびつけていただくか、を模索した内容になっています。キャッチフレーズは「世界の女性と少女に希望の未来を」。世界中の困難な状況にある女性や少女たちに、素晴らしい「希望の未来」を届けられるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。お仲間や周りの方々に配布いただけるとありがたく思います。ご希望の方は日本協会事務局にお問い合わせください。



協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

国連ウィメン日本協会北九州では、2017年7月8日にチャリティバザーを開催しました。毎年恒例の事業で楽しみにされている方も多く、お気に入りの品物を探して行列ができるなど盛況のうちに終わることができました。

また、7月2日に「男女共同参画と防災・減災」をテーマに講演会を開催し、「男女共同参画と災害・復興ネットワーク」代表の堂本暁子さんによる基調講演と、北九州市の各団体代表者から、団体の現状の取り組みや課題、今後の活動について発表が行われました。

今回の講演会を通じ、参加した多くの方が、男女がともに活躍する社会や、災害に強い社会の実現について、自らのこととして、あらためて考える機会になったと思います。

事務局 柴田雄一郎



国連ウィメン日本協会 大阪

11月11日(土)、クレオ大阪中央にて、「チャリティ交流会～女性のエンパワメントをめざすソーシャルパーティー～」を開催しました。当日は、学生を含む32名の方が参加され、幅広い世代の交流の場となりました。冒頭ではDVD(『地域ぐるみで女性・少女に対する暴力にNO!～ベトナム ダナン市の取り組み』)の上映をし、ダナンにおける暴力根絶支援の事例を紹介しました。また、三輪会長より国連ウィメンの取り組みについてお話をいただき、団体の活動を知っていただく機会となりました。その後の交流会では、参加者同士の積極的な意見交換がなされ、和やかな交流の場となりました。

チャリティーオークションでは、食器や雑貨など90点の品が並びました。入札が集中する人気の品も多くあり、入札結果の発表では、会場が大いに盛り上がりました。出展商品は全て落札され、賑やかな雰囲気の中、参加者の皆さまと楽しい時間を過す

ことができました。今回、学生を含む若い世代の参加もあり、世代を超えた交流の場を持つことができました。チャリティ交流会の場を通して、改めて国連ウィメンの活動や現状をお伝えでき、多くの方に協会の活動に関心を持っていただくことができました。

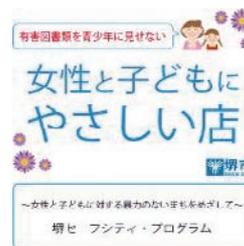
これからも、若い人たちにも気軽に参加できるような機会をつくっていききたいと思います。

事務局 長栄くみ子



国連ウィメン日本協会 堺

堺市では、UN Women が取り組むセーフシティ・プログラム(「公的空間」における女性・女児に対する性暴力やセクシュアル・ハラスメントを防止し減少させることを目的)に国内初、先進国では二番目に、2013年12月に参加表明しました。堺市では具体策の一つにコンビニエンスストアにおける成人向け雑誌の販売規制に取り組み、ファミリーマートが11店舗において成人向け雑誌の表紙にマスキングを実施。国連ウィメン日本協会堺では正会員の堺市女性団体協議会と協力し、二十数年前から成人向け雑誌の規制に向け行政機関にも働きかけてきました。この度、イオングループが1月1日より全国7000店舗において、成人向け雑誌を販売しないと発表。長年の活動の成果として、今後も調査研究を継続し、安心安全な都市空間が構築されるよう活動を展開します。



協力店舗のしのシール



コンビニエンスストアの実態

国連ウィメン日本協会 多摩

7月2日夕方4時から「スーホの白い馬」朗読とバックの効果音を馬頭琴とホーミーでという試みを行いました。そして、二部は馬頭琴とホーミー、口琴その他モンゴルの各地の楽器の説明と演奏、予定以上の参加があり担当者達は会場の中にも入れない盛況でした。10月1日はクラシックコンサート、12月3日はシャンソンコンサートと昭島、国立、府中と開催し、会員増にも久しぶりにつながりました。

来年は新体制になる年、又新しいアイデアが生まれ、活動により活気が出てくると期待しつつ、今年のをしめくくりにとり組んでいます。

(文責) 小川 裕未

国連ウィメン日本協会 よこはま

9月19日、NPO法人ウィメンズアイ代表理事の石本めぐみさんを迎え、セミナーを開催。～国内外の事例に学ぶ～地域コミュニティと女性のリーダーシップをテーマにワークショップ形式で学習しました。

10月は横浜市内各地の地域バザーに参加。明治学院大学の1日社会貢献プログラムで8人の学生さんを受け入れ、UN Womenを理解してもらうレクチャーとともに祭りのお手伝いをしていただきました。

11月は、20回目となるチャリティコンサートを開催。いつもより広い会場で、豪華にも「マリンバ3台による華麗なる饗宴」、NHK「今日の料理」のテーマ曲演奏でお馴染みの吉川雅夫さんが特別出演。出演者たちの人気が高くチケットは1か月前から完売、満席となり嬉しい悲鳴、大成功で終了しました。

会長 樽谷文代



国連ウィメン日本協会 東京

国連ウィメン日本協会東京では啓発活動としてテーマを決め、毎年2回ほどの連続講座を開催している。今年度は「文学とジェンダー」としてデンマークの女性作家カレン・ブリクセン(女性名)又はイ

サク・ディネセン(男性名)の生涯と作品という事で、代表作「アフリカの日々(愛と哀しみの日々)」 「バベットの晩餐会」を取り上げ、映像を見ながらの愛に溢れた楽しい講座となった。講師は加納孝代氏(青山学院女子短期大学名誉教授、前活水女子大学学長)。最後に「文学とジェンダー」問題のキーワードは「人間であること(Being a human)」。文学の意義とは:文学を読む⇒その作品を書いた人(著者)の理解者となる⇒著者の書いている世界の理解者となる⇒人間と世界と歴史の理解者となる、とまとめられた。

国連ウィメン日本協会 さくら

9月21日は国際平和デーという事で国連ウィメンさくらでは、櫻華塾でSDGsを中心に発表し合いました。①1981年コスタリカの発案により国連が制定。②当初は国連通常会期の9月の第3火曜日だったが2002年から9月21日と定められた。③この日は「世界停戦と非暴力の日」として、1日は敵対行為を停止するよう世界の国々に呼びかけている。

昨年は国連藩基文事務総長とピーター・トムソン議長によって平和の鐘が鳴らされました。この鐘は、国連加盟60カ国の子どもが、集めた硬貨で鑄造され日本政府から国連に寄贈されたという。大槻会長から国連本部で実際見てきての感想や北朝鮮核問題・SDGsの講義に真剣に取り組もうとの意気込み、あふれた会合になった。

広報部 瀧川



事務局からの報告

■マンスリー寄付のお願い(個人の方のご寄付)

個人の方のご寄付では、インターネットを通じて、毎月定額を継続しての寄付(マンスリー寄付)ができます。一回手続きをさせていただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができる仕組みです。

月額1,000円、2,000円、3,000円、5,000円の4つのコースから選ぶことができます。国連ウィメン日本協会ホームページの「今すぐ寄付」からアクセスをお願いします。

■2018年総会・協力協定団体ネットワーク会議開催のお知らせ

日時 2018年2月24日(土) 11:00～15:20

会場 婦選会館 多目的ホール

総会 11:00～12:45

主な議題

- ・2017年度活動報告、活動計算書(案)
- ・2018年度活動計画、活動予算書(案)

ネットワーク会議 13:30～15:20

主な内容

- ・協力協定団体からの活動報告
- ・意見交換

■寄付者一覧(前回掲載以降2017.12.30現在)

石橋三洋 岩城淳子 上田恵美 上原正臣 衛藤栄津子 大西珠枝 小野啓子 小野田賀寿美 小原泉 (株)キャセリーニ 上里町女性会議 上村優也 国連ウィメン日本協会よこはま 斉藤京子 酒井真喜子 サカタマユミ 佐々木賢二 讃井暢子 澤田直幸 鹿野京子 鷺見八重子 (株)ソシア 竹本和永 土田アイ子 長野麗子 端数倶楽部 原庸一郎 富士ゼロックス(株) 藤村純子 ブックオフコーポレーション(株) 星野利香 堀田郁子 本田均平 本田敏江 槇山幸恵 柳橋元彦 藪内麻貴 ユニリーバジャパカスタマーマーケティング(株) 日本女子大学サクラボ 吉川真由美 ビューティショップK 榎本和 大川紀代子 エイ・エイ・ピー・シー・ジャパン(株) 国連ウィメン日本協会東京

■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2017.12.30現在)

飯塚つぐみ 池田ルミ子 井出真澄 木内麻衣 小林千佳子 澤宏子 清水あつ子 林純子 藤井ミヨノ 藤井礼子 前西扶美代 牧純子 増村明美 間瀬まゆみ 山岡博子 山下菊栄 吉岡喜美江 国連ウィメン日本協会よこはま

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体18団体(2017.12.30現在)

〈団体〉(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO 法人一冊の会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 全国友の会 国連ウィメン日本協会堺 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会よこはま (公財)横浜市男女共同参画推進協会 国際ゾント26地区 (一社)大学女性協会 (公財)イオン1%クラブ

〈企業〉(株)高島屋 日本たばこ産業(株)

■正会員個人38名(前回掲載以降2017.12.30現在)

新規入会: 豊田由起子

■賛助会員団体13団体(2017.12.30現在)

〈団体〉久留米市男女平等推進センター 越谷ミズの会 (公財)せんだい男女共同参画財団 にいがた女性会議 日本生活協同組合連合会 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 国際ゾント姫路ゾントクラブ

新規入会: 特定非営利活動法人ウィメンズアイ

〈企業〉(株)グッドバンカー (株)電通 (株)リコー (株)フジテレビジョン (株)クロスメディア・ランゲージ

■賛助会員個人151名(前回掲載以降2017.12.30現在)

新規入会: 石黒民子 金井千瑛 入江暢子 松村由佳 山岡直子 岸山絵美 斎藤美栄子(2口) 星野利香 竹林由里子 八木和也 藍眞理子(10口)

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL.FAX. 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

